

「日本で最も美しい村」高遠へようこそ

《伊那市高遠町》

高遠には約 700 年間、高遠城が築かれていました。高遠城は、諏訪氏、高遠氏、武田氏、織田氏を経て徳川幕府になってから保科氏、鳥居氏の居城でした。元禄 4 年（1691）内藤氏が領主となって入国以来、180 年の長きにわたってここに居城し、高遠は伊那地方の政治、経済、教育、文化および交通の中心として繁栄しました。



明治 4 年（1871）に高遠県が置かれ、後に筑摩県となり、長野県となったのは明治 9 年のことでした。明治 8 年には西高遠町、東高遠町として県下で最も早く町制がしかれ、明治 22 年に両町が合併し高遠町となり、昭和 28 年（1953）施行された町村合併促進法により、長藤村、三義村、藤沢村、河南村と合併しました。その後平成の大合併により、伊那市、長谷村と合併し現在に至っています。

高遠町は平成 27 年（2015）「日本で最も美しい村連合」への加盟が認められました。連合総会では、「高遠城址公園と地域の人々が守り育てるタカトオコヒガンザクラ」と「日本一の石工『高遠石工』の石造物」の二つの資源が、独自性のある地域資源として評価されたことが加盟へとつながりました。

【しんわの丘ローズガーデン】—下車見学—

高遠しんわの丘ローズガーデンは平成 19 年（2007）6 月 1 日にグランドオープンしました。伸和コントロールズ（株）長野営業所が伊那市高遠町に開設 20 周年を迎えたことを記念して収益の一部でバラ園を造園し、平成 17 年（2005）に高遠町（現伊那市高遠町）に寄贈しました。



山の斜面に 8,851 m²の敷地を持ち、約 270 種、3,000 本余りの色とりどりのバラを見ることができます。また 830m の高台にあるので、眼下に高遠の町並みと遠くに中央アルプスを望むことができます。思う存分すばらしい景観をお楽しみください。今年 6 月には全国バラサミットが計画されていましたが、残念ながらコロナウィルス感染防止のため中止となりました。

【石に命を与えた守屋貞治】—紹介のみ—

江戸時代、経典や儀軌に基づきながら、写実的な表現で形式化に陥らず、個性的に、加えて精神性をも感じられるように石仏を彫った人物が守屋貞治です。

貞治（1765～1832）は、14、15歳のころから石工の修行に励み、20代で独立して以来、68歳で大往生するまでの間に340余体の石仏を残しました。貞治は仏門に帰依し、香を焚き、念仏を唱えながらひたすら彫像に励んだと言われています。今回は時間の都合で行かれません、



貞治の作品が見たかったら建福寺にぜひ立ち寄ってください。まさに貞治の美術館です。今回は貞治の生まれ故郷である塩供（しおく）公民館に立ち寄ります。

【華やかな文字の世界】—下車見学—

旧塩供公民館前に、縦138cm、横97cmと、大きな道祖神があります。見ればわかるように、「道祖神」の文字を装飾的に書き、これを見事に彫り込んでいます。間違いなく高遠石工の作品でしょう。



豊かな文字文化とこれを彫り込む石工の冴え、その二つの力が合わさってできた道祖神です。

この他にもこの杖突街道沿いには多くの石仏があります。今回は一つずつ見学することができません。ぜひ時間を見つけて杖突街道を散策してみてください。きっと心が和むことでしょう。

【バス停に注目】—車窓から—

高遠町は東京藝術大学初代学長伊澤修二の出身地です。そのご縁から、高遠町と東京藝大ではいろいろなところで連携をしています。有名なのは、毎年秋に開かれる「伊澤修二記念音楽祭」です。最近は音楽分野だけでなく美術分野での連携も深めています。その一つとして、国道152号線沿いで、東京藝術大学大学院の高井碧さんが地域と協力して進めてきたのがバス停アートプロジェクトです。藤沢片倉～高遠駅にある21か所のバス停にペンキを塗って楽しい空間に仕上げました。高井さんによると、バス停ごとにテーマを決めたそうですが、江戸時代を中心に活躍した高遠石工の石仏のイメージから「見守る」を沿線統一のテーマにしたということです。住民の皆さんからもとても好評です。



松倉バス停

【本陣跡と昔の旅籠】－車窓から－

高遠の中心部を離れて山間部に入ると、何となく懐かしい景観が広がります。背後には山が、その前に川が流れ、そして周囲には自然が、人の住む世界の美しさがいっぱい残っています。

藤沢地区御堂垣外（みどがいと）では、本陣跡の大きな門が人々を迎えてくれます。このお宅では、玄関・式台・上段の間が昔のまま残されており、庭園の組石や大名の籠立石等も当時の格式を伝えています。

旧本陣の南側には問屋を務めた伊勢屋、北側には旧旅籠のゑちごや（越後屋）が残り、宿場の面影を伝えています。



【千代田湖】－下車見学－

海拔 1,300mの湖の周辺には白樺林や松林があり、ヤマブキ、レンゲツツジ、そして高山植物の花々が短い夏の間色とりどりに咲き乱れます。湖のほとりにはキャンプ場も整備されています。さわやかな風が吹き抜ける湖畔のキャンプ場では、アウトドアライフを満喫できます。

釣りもできます。魚が釣れてもつれなくても、水と対話し、風の音と水流の音を聞く、これだけでも明日の活力が呼び起されます。山の中の湖での釣りも楽しいものです。



また、かつてはスケート場としても大賑わいでしたが、現在はスケート場としての活用はしていません。

近くには国立州高遠青少年自然の家が平成3年(1991)に開設されています。自然を親しむ活動が年間を通じて行われています。こ

ちらにも足を運んでみてください。

【板山露頭】 一下車見学一

板山露頭は、長藤の国道 152 号線を山室方面に少し入ったところにある正法寺の裏にあります。露頭に向かって左側の領家変成帯（内帯）に、マグマから固まってできた花崗岩がさらに変形した岩石が見られます。右側は三波川変成帯（外帯）で、結晶片岩（黒色片岩）が見られます。この地質境界が中央構造線です。

露頭より北側に位置する板山露頭展望台からは、中央構造線のずれで動いた断層部分が侵食されてできたまっすぐな谷が展望できます。左右のでき方が違う大地がずれ動いてできた境界で、急峻な西側の斜面と緩やかな東の斜面により、まったく異なる地質が接している様子が分かります。



- * 中央構造線：西南日本の中央部を横断する我が国で最も長大で重要な断層。
- * 領家変成帯、三波川変成帯：中央構造線により北側の内帯（領家変成帯）と南側の外帯（三波川変成帯）に変成岩帯が分かれている。名称はいずれも地名に由来する。

【ボタンの寺遠照寺】 一下車見学一



高遠を代表する日蓮宗のお寺です。ボタンはすっかり有名になりました。境内にあふれるように 1500 株、140 種類のボタンが咲き誇ります。

また伝承によれば、薬師堂は伝教大師最澄の草創によるもので、堂内に大師御自作の薬師如来が安置されていたといわれています。

遠照寺の本堂や庫裡は明治初年(1868)に火災にあいましたが、釈迦堂は火災を逃れました。昭和 5 年(1930)に国宝に指定され、昭和 25 年の法律改正によって重要文化財になっています。

亀島庭園は長さ 8 m、幅 3.5m の規模で、約 34 個の石が配置されています。全体の配置で亀のように見えます。周囲の白砂と年を経た岩、苔むした島と構成が見事です。

【高遠を守る大聖不動明王】－車窓から－

高遠石仏コンテストによく出品される守屋貞治の代表作です。常盤橋の西袂にありますが、本来、東に向かって村の方に悪いものが入ってくるのを防ごうとおかれたものです。憤怒の形相、光背の大火炎、どっしりした体つき等、まさに不動明王です。道を作るに際して動かしたら祟りがあったとの伝承もあります。

今は高遠の町全体を守ってくれているように見えます。

この近くに駐車場はありません。見学に際して路上駐車は危ないです。また、近くまで行くことも危険です。



【仁科五郎盛信の霊を祀る五郎山】－車窓から－



天正 10 年（1582）、高遠城が織田軍に攻められて、城主仁科五郎盛信らは壮絶な討ち死にを遂げました。勝間村の人々は戦が終わってから、焼け跡の屍を持ち帰り、若宮原で火葬にしてこの山に埋めました。それから後、五郎山と呼ばれるようになったといいます。

山頂には仁科五郎盛信の祠があります。かつて麓で血なまぐさい合戦が行われ、多くの方が死んだなどとは到底信じられません。

高遠小学校、高遠北小学校で毎年行われる運動会では、この戦いの様子を描いた「孤軍高遠城」を子どもたちが演舞します。お年寄りの中には涙を流す人さえいます。

【信州教育の源流進徳館】－紹介のみ－

藩校進徳館は藩の人材育成を目指して、「興国の基礎は藩士を養成するにあり、藩士を養成するには文武を奨励するより先なるはなし」と、万延元年（1860）内藤家 8 代藩主頼直公が極めて厳しい藩の財政事情の中で決断して開校したと言われてい



論語の素読（進徳館夏の学校）

進徳館教育はたった 13 年間でしたが、司馬遼太郎は進徳館教育から排出した方たちを「明治文化の宝石」のような人物と称賛したと聞きます。伊澤修二、高橋白山、

後藤杉蔵、青山勝謙、内田文皐、長尾無墨、中村弥六、伊澤多喜男、高橋作衛…当代一流の人物が現れ、北の松代、南の高遠と言われました。

平成7年に藩学の祖、阪本天山生誕250年、進徳館開校135年を記念して「進徳館の日」が創設され、毎年式典や基調講演、実践報告、少年剣道大会等が行われています。平成21年からは、夏休みに小学生が進徳館に集い、論語の素読や体験活動をしています。

【天下第一の桜碑】—紹介のみ—

二の丸の中央に「天下第一桜」と刻まれた、巨大な碑があります。昭和9年（1934）9月に高遠町出身の医師内田孝蔵によって建てられたものです。この碑は高遠城の桜が天下第一のものであることを80年以上前に高らかに宣言しています。天下第一を宣言したからには、これを守り伝えていく義務が私たちにはあります。昭和54年、長野県の天然記念物として指定されてから20年の節目の年、「高遠町桜憲章」を制定し、タカトオコヒガンザクラの保護育成と貴重な財産を後世に伝えています。



【伊澤多喜男の思い 無字の碑】—紹介のみ—

伊澤多喜男は伊澤修二の弟で、和歌山、愛媛、新潟の各知事、貴族院議員、台湾総督、東京市長、枢密院顧問官、警視総監を経た政治家です。昭和8年（1933）頃、町の有志が頌徳碑を建てようとしたのですが、「政治家というのは、今はどうあっても、後々どんなことが起こらんともわからん。まして自分などは何一つとして碑面に録するような事跡を残してはいない。後世に批判を招くようなことがあっては相済まん」と言って本人が許可しなかったので、昭和10年に文字のない碑が建てられました。



秋の高遠城址公園

参考文献：高遠風土記（高遠町教育委員会編）、高遠物語（中原長昭著）